

グリーンハーバー

NPO法人 みどりの市民 ニュースレター

No. 41
2017.9

発行:NPO法人
みどりの市民
〒380-0836 長野市
南県町 685-2
長野県食糧会館3階
発行人:高木直樹

いのちの循環を伝えるために 新「生ごみ減量アドバイザー」誕生

〈養成講座開催〉

生ごみを削減し、循環型社会を目指そうと平成16年度に始めた人材育成事業「生ごみ減量アドバイザー養成講座」は、今年で5回目となり、長野市が主催で開催されました。4月20日より開講した5回シリーズの連続講座は、平均90%という高い出席率で最終日7月13日を迎え、受講生18名全員が修了となりました。アドバイザーに、新しい仲間を迎え、生ごみの減量・堆肥化の活動をさらに進めていきます。

アドバイザーへの登録者数は26名、内、今回の受講生は7名です。(29年9月26日現在)

生ごみ減量アドバイザー:生ごみの減量や堆肥化などの知識や技術を持つ人を長野市が「生ごみ減量アドバイザー」として登録し、地域で開催される学習会等で講師として活動。

〈養成講座のプログラム〉

★1回目 4月20日 講師:高木直樹代表理事、長野市、みどりの市民

- ①地球温暖化とごみ問題 ②長野市のごみ処理の現状
- ③生ごみの堆肥化の基礎と実践I(ダンボール堆肥)

★2回目 5月18日 講師:細井千重子氏

- ①いのちの循環 ②生ごみの堆肥化の実践II(コンポスト)
- ③生ごみ堆肥を使って野菜作り

★3回目 6月22日【公開講演会】講師:井出留美氏

「食べ物を無駄(ロス)していませんか？」

★4回目 6月29日 講師:齋藤龍司氏

・生ごみ堆肥と土壌

★5回目 7月13日 講師:池田玲子氏 みどりの市民

- ①箱膳から学ぶ(堆肥化する前に)
- ②まとめ(受講生成果発表) ③修了式



1回目 堆肥化実践

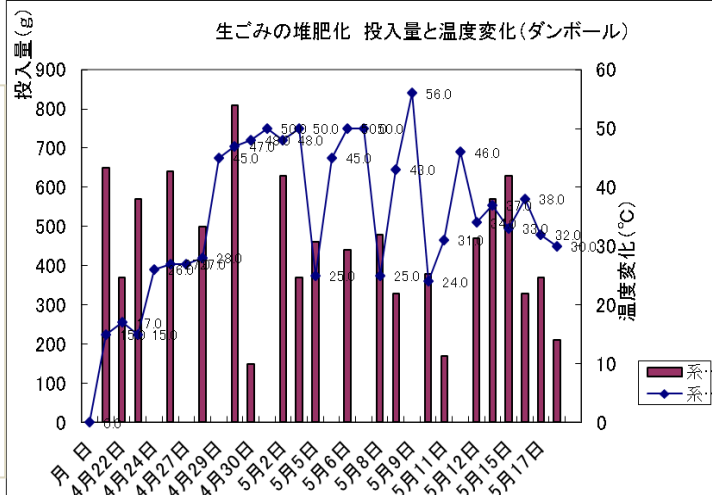


2回目 細井先生の授業



4回目 生ごみ堆肥と土壌

堆肥化実践のグラフ
コンポストの中の温度(受講生実践記録)



【講座を終えての学んだこと印象に残っていること】 《受講生のレポートより抜粋》

- 1回目・ごみ袋一つの処理費 473 円、化石燃料を沢山つかっている。
 - ・「自分だけががんばっても！」でなくまず自分から、小さな事から実践する事が大切。
- 2回目・すべてのいのちは土から創まる。生ごみを出さない感謝の暮らし。
 - ・1cmの土をつくるのに100年かかる。生命力のある土をつくるには堆肥が必要。
- 3回目・食品ロスの多さに驚いた。賞味期限は日持ち×安全係数(0.8)であること。
 - ・買い物する時は手前から買う意識をする。
 - ・買い過ぎないようにしたいと思う。食べられるゴミの量が魚の消費量と一緒にショック
- 4回目・土の成り立ちや性質について、サンプルを見たり触れながら学ぶことができた。
 - ・自分が堆肥化した土壌のPH、EC検査ができ、堆肥作りの奥深さを感じた。
- 5回目・日本の米食文化が田んぼを守り日本を守る。目に見えない向こう側の世界を見ることの大切さ。
 - ・箱膳の意義、日本食のすばらしさ、視点の持ち方を変えさせられた。



【講座を終えて～受講生の想い・感想～】 《受講生のレポートより抜粋》

- ・皆さんからの発表も考えさせられる内容で良かった。自分の生活を足元から考え直したい。ごみって生活面、社会面、歴史に通じていることが奥深いと思いました。
- ・土って生活の源ってことがわかりました。
- ・ゴミ減量は、すぐにでもだれでも取り組めること、今の活動の中で伝えていきたい。そこから地域へ拡大し、税の無駄使いをストップ、又は減らすことを共に学ぶ場を作っていきたい。
- ・身近な人や親戚等に伝えていくことは、すぐにでもできそうと思い、実行したいです。また、スタッフの方々の真剣さが伝わってきたことも忘れたくないことの一つです。
- ・今後も生ごみの堆肥化に取り組み、肥料を使わずおいしい野菜づくりを循環させていきたい。
- ・大変良い勉強ができました、ありがとうございました。

《例会の開催》

養成講座が修了してから初顔合わせは9月14日の生ごみ減量アドバイザーの例会でした。参加者は登録を更新した8名と今回の養成講座を修了したフレッシュなメンバー7名で合計15名となり、活気にあふれた例会となりました。

まず、それぞれの自己紹介と地域と生ごみ減量・堆肥化に対する熱い思いを語り、その後は、3つのテーマに分かれてのグループ討議。テーマは「食品ロス」「段ボール堆肥と堆肥の使い方」「その他」。最後に各グループで話し合われたことを発表し、全体での意見交換をしました。



《今後に向けて》

例会での熱い意見交換の中で、いくつかの提案が出てきました。中でも、全てのグループの共通の提案は、各家庭の段ボール堆肥から出た一次生成物の活用場作りでした。土が無い人は堆肥化をしてもそれを活用する場所が無い、一方、市では収集場所まで持参すれば野菜と交換するという制度もあるようだが、持参するのが面倒、あるいは情報が無いというのが現状です。そこで、その解決方法として、堆肥化した一次生成物を回収するシステムづくりの提案でした。このような前向きな具体的な提案がされたことはたいへん貴重で、これが実現すれば、小さいけれど地域資源の循環のモデルとなり得るのではないかと期待しています。小規模でもよいので何とか実現の方向に向けて検討していきたいと思えます。(事務局 渡辺)

■ 雑感 ■ 便利さもほどほどに

上田市 小金 玲子

ネットショッピングの利用世帯が 35%になったという。家に居ながら注文でき家に届く便利さに加え、書籍は翌日配達という速さ。書店に取り寄せてもらい店に取りに行くのはもはや少数派。この流れは地域の店舗を閉鎖に追い込み、運輸面での CO2 の増大、運送従事者に過酷な労働を強いている。

ペットボトルの消費は年々増大。ペット入り清涼飲料水は年間 203 億本 (500ml 換算) にのぼる。今や急須は不用。茶は買う時代になった。500ml では生産から廃棄までに 47ml の原油を使うという。廃棄にもお金がかかる。上田市の処理費は年間 1140 万円だ。軽くて再封でき便利。私は丈夫なペットボトルに入っている炭酸入り飲料を 1 本買いそこにお茶を毎朝入れジムへ持参している。すでに 1 本で 6 ヶ月過ぎまだまだ使えそう。

先日 NHK の「あさいち」でレジ袋活用法を紹介していた。その 1 例がレジ袋で手袋のように手を覆い、さらに別のポリ袋でトッププレートに飛び散った油を掴むようにしてとりレジ袋ごと捨てる手が汚れないというものだった。飛び散ったわずかな油をレジ袋とポリ袋計 2 枚で掃除するというから驚きだ。小さな古布で拭き取れば済む。まずはレジ袋をもらわないことが先決と思うのだが。

レストランのトイレでもペーパータオルやエアを使う人が多い。ハンカチ 1 枚持っていれば済むことだ。

このように生活のあらゆるところで「便利さ」「速さ」「安さ」が優先されてきている。

時には私達の選択が環境や経済、社会へ大きな影響を及ぼしていることに思いをはせてみよう。



今年の緑のカーテン

◆◆◆ こんにちは 新入会員の横川裕子です ◆◆◆



ふだん何げなく捨てていたゴミでしたが、ゴミ袋有料化を機会にどうしたら減らせるかを考えていました。

生ごみ減量アドバイザー養成講座の案内をみて「やれそうなことかな？」くらいの軽い気持ちで講座を受けてみました。実際に取り組むとうまくいかないこともありましたが、いろいろな方々と知り合いになるいい機会をいただきました。何よりもそれまでは全く知らなかった「みどりの市民」を知り、様々な活動にかかわらせていただいて、それまでは深く考えることのなかった分野、これからの私たちの生活について環境の面から考えるようになったことはとても良かったと思います。今後も無理をせず出来ることは少しずつ続けていきたいと考えています。

平成29年度のみどり農園

“ひまわりはやめる!” 決断から今年のみどり農園はスタートしました。手間や乾燥場所等諸般の事情から「大豆主体」となりました。

大豆は6月17日(土)に種を蒔きました。その後順調に育ち、10月半ばには刈り取りを行い11月に脱穀の予定です。今年は新たな取り組みとして「ソルガム」を大豆と一緒に蒔きました。雑穀ですが長野市でもソルガムのレシピを発表し、今後注目される作物です。種まき後の草取り等手間がかからないことと虫が付きにくい特徴から今年の結果を見て来年以降どうするか検討したいと思っています。ソルガムはお盆には出穂し、大豆と一緒に刈り取る予定です。

毎年行っている「家庭菜園」部分は4名での耕作になりました。ナスやキュウリ、ジャガイモ等種々の野菜を栽培しました。ジャガイモは6-7月の好天の影響で粒も大きくなりました。

8月5日には長野南高校の生徒二人(社協主催のサマーチャレンジボランティア)が参加して「農業体験」を行いました。

理事 山口吉久



お知らせコーナー

このTシャツはどこからくるの？

ーワークショップ エシカル消費を考えるー

日時/11月11日(土) 10:30~12:30

場所/もんぜんぷら座304号

参加費/500円(資料代)

定員/30名(先着順)

申込み/11月2日(木) 締切

講師/認定NPO法人ACE(エース) 田柳優子

ACE:世界の子どもの児童労働から守るために

講座の申し込みは下記みどりの市民事務局へ

草木染めとばーばのおやつ

日時/10月12日(木) 10:00~12:00

場所/ふれあい福祉センター

参加費/1700円

(シルクプチストール、材料費込み)

定員/10名(先着順)

申込み/10月6日(金) 締切

持ち物/エプロン、ゴム手袋

内容/シルクプチストールを草木染め

昔懐かしいばーばのおやつの紹介と試食

《事務局情報》 (9月30日現在)

会員45名 賛助会員12名 計57名

寄付金 11名より 53,500円

感謝!

FMぜんこうじ(76.5Mhz) 毎月第4水曜 8:40~
《コトコトの省エネ学級》

担当:10月:渡辺、11月:渡辺、12月:清水
お時間があつたら fm765 に合わせてください。

〒380-0836 長野市南県町 685-2

長野県食糧会館3階

TEL&FAX 026-235-5113

E-mail midori@midori-c.com

URL <http://midori-c.com/>



《編集後記》 今は1年中で一番凌ぎやすく、イベントにはもってこいの季節。イベントの使い捨てごみを減らそうとリユース食器を広めています。でも、なかなか広まりません。ハチドリの一滴かもしれませんが、ぶれることなく、実践していこうと、自分を勇気づけています。(H)